

令和2年度事業報告

1. 概況

- 前年度とほぼ同じ規模で計画し、奨学事業、研究助成事業ともに遂行しました。
- 財団の収支計算書に関しては、概ね予算通りとなりました。

(収入)

当期収入は 233 百万円となり、予算を 5.9 百万円上回りました。

主な理由は、貸与奨学金の返還が 4.6 百万円上回ったことによるものです。

(支出)

当期支出は 244 百万円となり、予算を 15 百万円下回りました。

主な理由は、奨学事業支出が 11.9 百万円下回ったことによるものです。

(収支差額)

以上の結果、当期収支差額は▲11 百万円となりました。

次期繰越収支差額は、前期繰越収支差額 197 百万円と合計し、186 百万円となりました。

- また、以下の通り公益財団法人の認定等に関する法律の要件を満たしております

(公益事業比率 認定法十四条)

公益事業の経常費用は 206 百万円となり、法人会計を含めた経常費用合計 242 百万円に対して 85%となり、基準である「50%以上」を満たしています。

(収支相償 認定法十六条)

奨学事業収支は▲61 百万円、研究助成事業は▲28 百万円となり、公益事業の収支がそれぞれ赤字となっており、収支相償の原則も満たしています。

(遊休財産保有制限 認定法十五条)

次期繰越収支差額 186 百万円は、公益事業費用 206 百万円を 20 百万円下回る結果となり、遊休財産額が 1 年分の公益目的事業費相当額を超えない要件を満たしております。

2. 日本人学生向け奨学事業

2.1 給与奨学金(369名、110.7百万円)

指定 73 大学の 369 名(385 名の計画に対して、定員割れ 16 名となった)の理工系学生に対して、一人当たり 30 万円/年で、合計 110.7 百万円(予算は 115.5 百万円に対して 480 万円減)を給付しました。

2.2 海外留学奨学金(2名、37万円)

コロナの影響で 2020 年 4 月まで留学期間がずれ込んだ者 2 名の給付に留まり、予算

5.5 百万円に対して 37 万円しか消化しませんでした。これは 2020 年度に予定していた 4 名の留学が全員キャンセルとなり、さらに 2021 年度留学予定の募集を延期したことによるためです。

制度としては指定 5 大学に対して各 1 名の合計 5 名に対して、月額 15 万円の奨学金と渡航費 20 万円を給付することとしている。対象はいずれも理工系の大学院生。

2. 3 貸与奨学金

2011 年度から新規募集を停止しており現在は返還のみ取り扱っております。

2020 年度は一括返還した者が予想 (68 百万円) より多く 72.5 百万円の返還金がありました。2020 年度末の返済残額は 257 百万円、520 名となっています。

3. 海外からの留学生向け給与奨学事業 (80 名、24 百万円)

指定 69 大学の海外からの理工系私費留学生 80 名を募集し、80 名の応募があり、一人当たり 30 万円/年を給付しました。

4. 奨学生ならびに大学担当部門との面談・交流

4. 1 指定大学訪問

コロナの影響により、2020 年 10～12 月にかけて予定していた指定大学訪問と奨学生との面談はすべて中止しました。

4. 2 海外からの私費留学生との懇談交流

コロナの影響により、例年 12 月に実施している首都圏所在大学の海外からの留学生との懇親交流会は中止しました。

5. 研究助成事業 (30 名、60 百万円)

研究助成は、奇数年：37 大学、偶数年：36 大学を対象とし募集しています。

2020 年度は 36 大学より募集し 58 名の応募があり、選考委員会で審査の結果、30 名に対して一人 200 万円、合計 60 百万円の助成を行いました。

なお、2020 年 9 月に予定していた研究助成金贈呈式は中止しました。

また、2019 年に助成した研究報告集を纏め、関係者に配布しました。

公益財団法人 日揮・実吉奨学会 奨学金および研究助成金の指定大学一覧(2020年度)

大学 コード	大学名	日本人		留学生 給与 (人数)	研究助成金		大学 コード	大学名	日本人		留学生 給与 (人数)	研究助成金		大学 コード	大学名	日本人		留学生 給与 (人数)	研究助成金	
		給与 (人数)	留学		奇数年	偶数年			給与 (人数)	留学		奇数年	偶数年			給与 (人数)	留学		奇数年	偶数年
01	北海道	9		2		○	25	福井	3		1	○		51	大阪府立	5		1		○
02	東北	9		2	○		26	静岡	7		1	○		52	埼玉	4		1		○
03	東京	11	○	2	○		27	山梨	3		1	○		53	富山	3		1	○	
04	京都	11		2		○	28	名古屋工業	5		1		○	54	琉球	3		1	○	
05	大阪	11	○	2		○	29	山口	4		1	○		55	茨城	4		1		○
06	九州	11		2		○	30	九州工業	5		1	○		56	東京農工	5		1	○	
07	東京工業	9	○	2	○		31	室蘭工業	3		1		○	57	岐阜	4		1	○	
08	横浜国立	6		1		○	32	首都東京	5		1		○	58	愛媛	4		1	○	
09	岩手	3		1	○		33	大阪市立	3		1	○		59	北見工業	2		1	○	
10	千葉	7		2		○	34	早稲田	11	○	2		○	60	宇都宮	2		1	○	
11	新潟	4		1	○		35	慶應義塾	9	○	1		○	62	佐賀	3		1		○
12	金沢	4		1		○	36	芝浦工業	9		1		○	63	大分	1		1		○
13	名古屋	9		2	○		37	東京電機	9		1	○		64	兵庫県立	3		1		○
14	神戸	7		1	○		38	日本	11		1	○		65	豊橋技術科学	2		1		○
15	岡山	5		1	○		39	中央	4		1		○	66	長岡技術科学	2		1		○
16	広島	5		1		○	40	学習院	1		-		○	67	筑波	7		2		○
17	徳島	4		1	○		41	東京理科	11		1	○		68	工学院	7		1		○
18	長崎	2		1	○		42	千葉工業	9		1		○	69	東海	11		1		○
19	熊本	4		1	○		43	成蹊	1		-		○	70	電気通信	4		1		○
20	宮崎	3		1	○		45	鹿児島	5		1	○		71	立命館	8		1		○
21	鳥取	4		1	○		47	東京都市	4		1		○	72	日本女子	1		-		○
22	秋田	2		1		○	48	上智	2		1	○		73	東京海洋	3		1	○	
23	山形	5		1		○	49	関東学院	3		1	○		74	明治	9		1	○	
24	群馬	3		1	○		50	信州	7		1		○	75	同志社	5		1	○	
														76	お茶の水女子	1		-		○

* 日本人向け奨学金	給与 385名/73大学	留学 5名/5大学
* 留学生向け奨学金	給与 80名/69大学	
* 研究助成金	30名（偶数年は36大学、奇数年は37大学から）	

(大学コード 欠番 : No.44 No.46 No.61)

2020年度研究助成金受給者				
大学名	氏名	所属	職名	研究題目
北海道大学	鳥屋尾 隆	触媒科学研究所	助教	低温低圧でのメタノール合成触媒プロセスの開発
京都大学	青木 航	農学研究科	助教	新規ポリマー空間の創出に向けた試験管内人工Ribosomeの構築
大阪大学	山野 範子	工学研究科	助教	新規構築した無血清浮遊馴化CHL-YN細胞の特徴解析と高度生産プロセス開発
大阪大学	上谷 幸治郎	産業科学研究所	助教	炭素繊維複合ナノペーパーによる熱制御部材の開発
九州大学	末松 昂一	総合理工学研究院	助教	無自覚疾患の早期検出に向けた生体ガス分析用ガスセンサの開発
九州大学	井上 大介	芸術工学研究院	助教	動くDNAナノ構造体のアセンブリ技術の構築
横浜国立大学	鷹尾 祥典	工学研究院	准教授	宇宙の利活用を飛躍的に高める超小型衛星用イオンエンジン
千葉大学	泉 賢太郎	教育学部	助教	生痕化石に記録された短時間スケールの生態情報: 古生物の日～年スケールの行動を復元する萌芽的試み
広島大学	宇敷 育男	先進理工系科学研究科	助教	CCUSに向けた超臨界流体法によるイオン液体含浸ナノポーラスシリカの革新的創製
広島大学	志村 恭通	先進理工系科学研究科	助教	セリウム系合金を用いた極低温用の金属磁気冷凍材料の開発
秋田大学	山田 学	理工学研究科	講師	オクタン価を向上させる含硫黄環状化合物チアカリックスアレーンを基本構造とする超分子有機結晶の創製
秋田大学	肖 英紀	理工学研究科	講師	次世代記録媒体実現に向けたナノ結晶組織内磁気スキルミオンの新規STEM法による解明
山形大学	大音 隆男	理工学研究科	助教	窒化物半導体ナノコラムメタマテリアルの創成と光機能制御
山形大学	江目 宏樹	理工学研究科	助教	機械学習による高効率熱吸収粒子開発と光熱変換機構の解明
東京都立大学	中川 雄介	システムデザイン学部	助教	プラズマ由来長寿命ラジカルの光解離を利用した、形状自在な強酸化場の形成
早稲田大学	一色 理乃	先進理工学部	助教	独立栄養微生物の実態を解き明かす表現型の不均一性の解析
慶應義塾大学	松久 直司	理工学部	専任講師	伸縮性トランジスタの閾値電圧制御と回路応用
慶應義塾大学	酒井 隼人	理工学部	専任講師	光子定量反応を超えて進行する反応触媒の創造
中央大学	黒木 菜保子	理工学部	助教	吸収量・速度の両面で優れた革新的CO ₂ 吸収液実現のためのイオン液体と有機溶媒の混合インフォマティクス
千葉工業大学	原口 亮介	工学部	助教	生体触媒を模倣した二点活性化型有機コウ素触媒による環境調和型二酸化炭素変換プロセスの開発
大阪府立大学	弓場 英司	工学研究科	准教授	ナノプラスチックが生体内で引き起こす免疫応答評価のための基礎的検討
大阪府立大学	鈴木 祥仁	工学研究科	助教	高分子濃厚溶液での液体-液体相分離と急激な反応速度上昇の理解
埼玉大学	乙須 拓洋	理工学研究科	准教授	膜融合の分子機構解明に向けた脂質二重膜間相互作用の分光学的研究
埼玉大学	高橋 朋子	理工学研究科	助教	ウイルス感染とその感染拡大を正しく理解し制御するための遺伝子発現ネットワークの解明
豊橋技術科学大学	広瀬 侑	工学研究科	助教	多様なフィコビリソームを用いたシアノバクテリアの光合成効率の向上
筑波大学	近藤 正人	数理物質系	助教	全内部反射ラマンと過渡回析格子法で観るタンパク質構造や動きに対する界面の影響
工学院大学	坂野 遼平	情報学部	助教	省リソース性に優れた分散台帳技術の研究
電気通信大学	津田 卓雄	情報理工学研究科	准教授	超高層寒冷化モニタリング実現に向けた地上レーザーセンシング用狭帯域フィルタの試験開発
立命館大学	笠原 浩太	生命科学部	助教	転写因子の天然変性領域による遺伝子発現制御の分子メカニズム
日本女子大学	秋田 佳恵	理学部	助教	細胞形態形成初期におけるリビッドボディと液胞の役割